

March 30, 1973
**Record of Conversation between Foreign Minister
Ohira and Chen Chu**

Citation:

"Record of Conversation between Foreign Minister Ohira and Chen Chu", March 30, 1973, Wilson Center Digital Archive, 2004-204, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Contributed by Yutaka Kanda.
<https://digitalarchive.umd.edu/document/118839>

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan

大臣
事務次官
外務審議官

官房長
官房総務参事

儀典長
儀典官

秘密用
中江参事

秘
除
期
限
22

別紙
同
三
頁

大平外務大臣・陳楚時節全権
大使との全記録

48.3.30

申口課

陳楚中華人民共和門駐日時節全権

大使との培養等書記官を帯同し、3月29

日午後1時より1時30分まで着任のあいな

のため大平外務大臣を表敬訪問したるに

この際、会談概要は次の通り。

まず日本側から、力石儀典長、口宏

申口課長及び藤井大臣秘書官が同会談

GA-6
に出席した。

省外務省
中 申

2

大臣： 大使閣下を東京にお迎えの事お喜びの事お聞き申す。閣下の着任を歓迎する。

大使： 大臣の御言葉に感謝する。昨日は上海からの直行便に乗りましたが、二時向余りの飛行で

東京に到着した。

大臣： 上海からは二時向余りの飛行お喜びの事お聞き申す。

か。飛行状況は順調であったか。

大使： 概ね順調であった。

大臣： 時に大使は何人の子供を連れておられるのか。

大使： 子供は二人ですが現在いづれも12歳に達している。

大使： 着任早々大平大臣閣下^{着任の挨拶の事}と貴族院^{貴族院}にお立ち寄りいただき、お話しを伺う機会を得ようと思っております。北京を

出發する際、周恩来總理、姬嶋昭外相より、田中總理、大平外務大臣、二階堂宮房長

官に対し特に早くお伝えする旨の命令を受けた
ので傳達申し上げます。

大臣：お言葉に感謝する。私自身として
日本政府としても大使閣下を東京にお迎えす

と同時に光栄に思

ふるところに思っている。私としては、田中
両氏の変わらない信頼、理解の上に立ち、今後

田中両氏の関係を安定した強固な基礎の上
に置くようにしたくこの面では協力出来るもの

と考えている。

現在に於て一つ申し立てを思っているに

とは、陳大使閣下^御の着任以前に中国大使館
の物的施設の整備が出来なかった事である。

与後 陳大使閣下の御意向をうかがい、最善の努力を怠らぬ。出来る限り早い時期に大

使閣下及び大使館長の皆さんが落ちついた生活が出来ると有り難い。

大使： 現在のことよりホテル住みに落着かたに思ふに不便であるが、大使館についての白

本館の努力に感謝している。北京の日本大使館については完全に満足している施設を世に

して欲しいとは思はない。北京の日本大使館事務所は一つの建物で成っているのではなく、二つの建物を

を併下にしてある。

大臣： あが方大使館建物につき早速御取

慮願に感謝している。今朝の閣議の外務委員会で、北京のあが方大使館建物について中

日側が上述に提供してくれてゐるに拘らず、申
は大使館の物的施設が完備してゐる。日本側

はたゞし、たゞしはたゞしが、と云つて野望の意
量が比較された。これに對して、^{物理的} 日側が
物理的

たゞし野望と情報があれば、この問題は早く
解決するに答へてゐいた。

大使： この問題は両国の友好関係に影響
は与へないし、我々はこの問題が大平大

陸の如き早くより早く解決することを信じてい
る。今次赴任に際し、先刻も申し上げた通

り、上海より釜山、神戶、^{を経て} 鹿島、~~神戶~~ 羽
田に到着した。この向の旅程は約2時間半

の間に、申は日本への向は誠に一夜帯木の向極
程の近き隣邦であることを改めて強く感じ

た。日中両国の友好関係の一大の発展のため
 に日本の友人達と今後更に長期の努力を行
 ねてゆきたいと考へてゐる。

昭和九年九月大平大臣閣下は田中総理と

共に訪中する平沢東主席、岡田総理、姫岡
 飛外相と中門政学の指導者と会われ日中

交正常化へと話合はせられ、両国の外交関
 係が始まつた。従つて日中外交正常化における

大平大臣閣下の貢献は非^常に重要なものがあ
 り、今次北京を出發する際にも岡田総理

姫岡飛外相と、特に是れが彼等自身の
 方針指示を受けた事と次々と致す。

大臣：私が^{行つた}たは二ヶ月二ヶ月當然の出来事
 である、何の誇りも事柄ではないと考へてゐる。

兵衛の遺言を聞き、悲願している次第
である。

申し上げたい

第一、陣大使閣下及び申口大使館員の
皆様方が当地即ち勸業、静養、生活をして

下さる様、願っているところである。我々には
皆様の氣にされる事が起るや、との注意、

であるが、大使閣下も御承知の通り、我が国
は自由開放体制の国柄であり、国内には種々

の分子がいる。これをやるものもある、申口側
の氣にされることがあるかも知れない。日本政

府としては、この様な出来事が起るや、との極力
注意があるが、この様な出来事が皆無という事は

約束申し上げたい^{こと}は、~~は~~難しい。しかし、かかる出来事は、
皆様の^{こと}を望む、自由開放体制の一環の

支那のべき代償もいふべきであるかも知れない
 とおかしこの尺のな出果事が発生した場合も案の
 意に介さぬ態度をとられる尺の望みはいい。この尺の
 出果事をいへ出かす連中も案のいふ高貴をせよ
 といふ事もある。時機 自分自身も存在を世
 間に誇る必要があり。それならば"自分自身
 の敵を殺す"とせよ。私もこの尺の連中
 は学問をせよといふ事もある。これは。

大使： 大臣閣下は御祝儀に感謝する。中には
 大使館側からいふ事も大平大臣閣下は日本
 政府の配慮の下に確かなる出果事もいふ
 事がある。本年9日の日中共同声明に於て両国間の
 平和友好をいふ大方向が決められた。これは
 今後日中両国人民の友好関係を発展強化

とされている。日中両国間に相互に^等邊が望ましい
場合も、平和友好という大方向が定まってい

る以上、話し合いにより合理的^等解決が得られ
るものと思ふ。私は日中両国の善隣友好のため

努力してゆきたい。このための御協力を仰ぎたい。
昨年9月の日交正常化により、日中両国関係建上

り新しい頁が開かれたが、各自はこれを愛せしめ
^{結果}として中日両国の友好の新しい頁を書き続け

てゆきたい。何分各自は日本に初めこそ右次第の
あり、何か不備な事がある時は指摘して頂きたい。

敬不承蒙。此心。

大臣：(日中関係については)是等御指摘

のありは通りである。隔意のない話し合
いを通じて、中日友好の大精神に基づいて、各種

大使：お言葉に感謝です。大臣閣下中身の
お言葉は「先二巻のさかんなり」の表現

通り、御健康を標記の何よりです。

大臣：どう致し様に御の事お白くなりし事、

に。大使閣下の方々醫の事も白く~~ま~~ ^まかなく
是れ何よりです。此は失礼です。

大使：失礼です。